

第4回 岡谷小学校のあり方検討委員会 会議録（要旨）

1 日時

平成25年7月30日（火） 午後7時～午後9時30分

2 場所

岡谷市役所6階 603会議室

3 出席者

委員 原豪志委員、宮崎勇委員、三村田卓委員、藤森真由美委員、林幸三委員、
小林啓助委員、薩摩林忠美委員、沓掛貴芳委員、田中沙里委員、濱一平委員、
武居崇委員、八幡義雄委員、原山智委員、森本健一委員、荒深重徳委員、
古本吉倫委員、岩下貞保委員（名簿順）
計17名（欠席者：林裕一委員、原史郎委員）

地質調査業者 ㈱長野技研

岡谷市・岡谷市教育委員会

古屋博康教育部長、河西稔建設水道部長、吉澤洋人教育総務課長、山本文
明土木課長、橋爪哲也企画課長、古川幸男危機管理室長、小口直伸土木主
幹、三澤達也学校教育主幹、高橋卓教育企画主幹、清水亮教育総務課主査、
八幡学土木課主査、宮坂洋平教育総務課主任

○会議次第

1 開会 午後7時

2 議事

（事務局から、会議の成立報告。続いて、委員長から、本日の会議について傍聴を許可して
よいかどうかを委員に諮った結果、異議なく許可することとなった。）

<議事の内容>

- (1) 前回の報告等について
- (2) 追加ボーリング調査結果等について
- (3) その他

【委員長】

(1) 前回の報告等について、事務局よりお願いしたい。

【事務局】

(前回の会議であがった質問に対する回答。)

質問①「北校舎昇降口および南校舎 2 階教室にある支柱は、いつ頃設置されたのか。」

回答： 北校舎昇降口の支柱は平成 12 年、南校舎 2 階教室の支柱は平成 16 年に、それぞれ設置された。

質問②「その他校舎に見られる亀裂は、いつ頃に確認されたのか。」

回答： 平成 15 年に行った耐震診断の際に、指摘を受けた。

質問③「南校舎から北校舎へ移った方がいいのではないか。」

回答： (現在の南校舎と北校舎の利用状況を説明した上で) 北校舎だけでは狭いため、北校舎だけでなく、中校舎の利用も含めて、移動ができるかどうかを検討している。

【委員長】

質問や意見はありますか。

【委員】

次回の委員会までに、平成 12 年度から今年度までの児童数 (5.1 時点) の推移が分かる資料を出していただきたい。

【事務局】

了解した。

【委員長】

他にありますか。

(なし)

なければ次に移ります。

(2) 追加ボーリング調査結果等について

【委員長】

このことについて、説明をお願いします。

【調査業者】

(調査結果についての説明。校庭部分も東側(谷側)に向かって盛土が厚く、校舎を支える強度を持った N 値 50 以上の硬い地盤は、現校舎側よりも深い。また、約 1 万年前の木曾御嶽山の噴火で堆積した火山灰の地層に約 6 メートルの段差があり、地滑りがあった可能性がある。)

【事務局】

(現在地において、現在の児童数規模の学校を建替えた場合の校舎のレイアウトを示す。建替え後の校舎は、現在ある校舎と比べて、それほど規模を縮小できるものではなく、おおよそ 4~5 教室分が小さくなるくらいのイメージ。)

【委員長】

追加調査により、予想以上に校庭部分も盛土が厚いことが分かった。校庭に校舎を移転す

ることは難しいとのことであったが、その理由をもう少し詳しく説明してほしい。

【事務局】

追加調査結果から、予想以上に校庭部分の盛土が厚く、また支持層が深いことが分かった。学校敷地全体を地盤改良する必要があるし、現在の校舎よりも深く支持杭を打つ必要がある。また、校庭に校舎を再配置すると、校庭として利用できる部分も制約を受ける。

【委員長】

このことについて、質問や意見はありますか。

【委員】

2点質問したい。1つ目に、火山灰で堆積した地層に段差ができていることから、潜在的に地滑りがあったとの説明があった。そこで、およそ何万年前の地滑りなのかを教えてください。2つ目に、弱風化岩はN値が高いので、支持層になるのではないかと。

【調査業者】

確認はしていないが、一番新しいものであれば、約1万年前だと考えている。段差ができた原因は、地滑り以外には、川によって形成された段丘や活断層の動きによることが考えられるが、ボーリング調査によって川の堆積物が出てきていないことや、マグニチュード7以上の大地震でも約1メートルずれるかどうかの断層の動きが、過去1万年前に6回あったとは考えにくい。そのため、地滑りで形成された可能性が残ると考えられる。

【委員】

地滑りの方向は、どちらからどちらか。また、弱風化岩については。

【調査業者】

地滑りの方向は、西から東と考えられる。ご指摘のとおり、弱風化岩が支持層となる。この位置においては、地表から23.82メートルより下の深さで支持層になる。

【委員長】

他にありますか。

【委員】

何のために、地質調査をやっているのか疑問である。岡谷小を残すための調査であれば賛成だが、岡谷小を残せない理由を探すための調査であれば、お金と時間の無駄な気がする。そうであるならば、この場所を諦めて他の場所を探すなどの検討を行う委員会でありたいと思う。この問題に関して、市長はどのように考えているのか。

【事務局】

そもそも、市としては、現地での建替えを計画していた。けれども、地質調査の結果、それが困難だということを受け止めなければいけないことになった。この岡谷小の問題は、市長を含め、庁内全体で慎重に検討を重ねてきた。客観的データをもとに検討した結果、現地での耐震改修を行うことは難しいと判断せざるを得ないということに至った。追加調査は、これまでの調査をさらに補完するために行ったものである。

【委員】

こういう理解でよろしいか。市は当初、現地で岡谷小学校を建替えようとしていたが、いろいろな調査をした結果、今の場所が危険であることが分かってきた。そのため、このような委員会を立ち上げたり、各地区で説明会を行ってきたと。あくまで当初は、現地で岡谷小を建替えようとしていたと。

【事務局】

そうです。

【委員】

私は、現地で建替えてもらいたいと考えている。ただ、現地の地質に問題があるならば、それを諦めざるを得ないのかなとも思う。そこで、提案だが、改めて地元 3 区への説明会を行っていただきたい。現地が危ないと判断した専門家やこの委員会の識者の方にも同席していただき、こういうことだから危ないとか、こういうことならできますよとか、地質的・科学的に区民への説明を行う機会をつくっていただきたいと思う。区民が納得しないと、これ以上話が進まないと思う。

【委員長】

今後の岡谷小のあり方を検討するために、この委員会が設けられている。委員会の議事録は、HP で公開されている。

【委員】

それではだめだと思う。地質が危ないようだというのを区民へ話ができるが、区民からの質問に答えることができない。専門家が出てきて説明をしていただきたい。1、2 回程度でよい。そうしていただかないと、この問題は先に進まないと思う。

【委員長】

市の HP では、どこまで資料が公開されているか。

【事務局】

会議録を公開している。資料は掲載していない。

【委員長】

今の要望に対してどうか。

【事務局】

委員さんがおっしゃることもよく分かる。今どうするとは言えないが、重く受け止めたい。この検討委員会のあり方にも影響するため、検討してご返答したい。

【委員】

仮に HP に資料を掲載しても、それを一般の人が見ても分からないと思う。資料が出揃ったことを踏まえれば、この時点で、一般の人に説明をすることが大事だと思う。

【委員長】

周辺が土砂災害防止法の急傾斜の規制がかかっていることや、崖下に民家があることを考えれば、その上に構造物を建てることは、行政が行うことではないと思う。識者の委員さ

んのご意見を伺いたい。

【委員】

校庭に校舎を移転することは、ありえないと理解している。

【委員】

一つ一つ問題を確認し、潰していく必要がある。普通は、更地に建てた方が安全だし、コストも安い。だが、岡谷小の保護者は、現地に建替えてほしいと言っている。あの場所が危険であるという共通認識ができていない。何を一番に望むかだ。

【委員】

先ほど住民への説明会を開いてほしいとの話があったが、専門家として出席して説明することは可能。ただ、説明会を開けば、現地で建替えることが難しいということをご納得いただけるのか。説明会を開いても、変わらないのであれば、何のためにとということもある。

【委員長】

いろいろな人がいる。ただ、説明会を行うとなると、時間がかかることになる。

【委員】

以前行われた区への説明会では、市から一生懸命説明していただいた。しかし、現地が危険であるということが、区民に十分に伝わっていない。専門家から説明を聞きたいという要望がある。小規模校なら可能ではないかという意見もある。

【委員長】

区への説明会を開いてほしいということについて、ご意見ありますか。

【委員】

説明会を開いていただきたい。

【委員】

説明会はいらないと思う。それよりも、岡谷小を残せるのか残せないか、その1点を知りたい。資料を見て説明されても、一般の人は分からないと思う。

【委員長】

お金をかけて今の土木技術をもってすれば、100点満点は不可能であるが、対応の方法はあるかもしれない。ただし、お金をかけていいのかという議論が必要になることと、岡谷小の下の人家の安全性を確保することが難しいことがある。土砂災害防止法の指定がかかっている場所に、のり面補強や杭を打って建物を建てるというようなことは、一般的に行政はやっていないことは事実。

【委員】

では、やらないということか。

【委員長】

やらないではなく、やれないとうこと。

【委員】

お金をかければ。

【委員長】

お金をかけていいのかという議論になる。

【委員】

市長はどう考えているのか。市の問題として、取り扱っていただきたい。

【事務局】

お金のことは置いておいて、安全が確保できるかどうかの点で話を進めてきている。前回お話しした対策工法にかかる概算工事費を出せないから、やらないということではなく、安全を完全に担保することが難しいということ。

【委員】

100%の安全を確保することは、どこの場所でも不可能だ。今より、少しでも安全が確保できるのであれば、やる価値があるのではないかと言っている。

【事務局】

当然、税金のこともあるが、技術的に安全が担保されない限りは、踏み切ることはできない。

【委員】

今現在、学校に通っていてよいのか。安全が担保できないなら、今すぐ子どもを他に移さなくてよいのか。

【事務局】

3月の説明会から何度も申し上げているが、今すぐ危険であるということではない。今学校を建てると、今の子どもが孫の代まで使用することになる。そのような長期的なスパンの中で考えて、安全を担保することはできない。お金の問題ではない。

【委員】

安全を担保できる場所は、どこにあるのか。

【事務局】

新しい敷地を求めるのであれば、その敷地の地質の確認や安全対策は当然行うだろう。

【委員】

どこなら安全なのかを聞いている。安全な場所は、誰が選定するのか。

【事務局】

今すぐ学校を建てられる土地が空いているわけではない。そのようなことも含めて、この委員会で議論していただくということでスタートしている。

【委員】

現地存続ができなければ、市は岡谷小学校をなくすということか。

【事務局】

現地での建替えが困難のため、今後の岡谷小学校をどのようにするのかを検討することがこの委員会の目的である。

【委員長】

地元区への説明会を開いてほしいとのことについては、市と調整する必要がある。

【委員】

今、岡谷小に通っていて本当によいのか。危険であれば、今すぐやめた方がいいと思う。南校舎 2 階の教室を私の子どもが使用している。平成 15 年の耐震診断を受けて、平成 16 年に教室に支柱が設置されたということだが、支柱を立てることで対応が済んだということでしたよね。しかし今、それが危険ということであれば、平成 16 年から今まで 9 年間も教室を使っていて本当によかったのか。そのあたりに若干不信感がある。平成 27 年にこだわらなくてもよいのではないか。

【事務局】

市は、学校を含めて公共施設の耐震改修を平成 27 年度末までに行うことを目標として、これまで整備を進めてきている。

【委員】

タイムリミットが来ている。もっと以前からこの話を聞いていれば。

【委員】

市は、市民に対して謝ってほしい。まずは、そこから。

【委員】

別に謝らなくてもよい。

【委員】

私は謝ってほしい。

【委員】

タイムリミットが来ている。

【委員】

市への不信感が多い。

【委員】

後の選択肢が無いなかでの、3 月の説明会だったと思う。

【事務局】

3 月の説明会からお叱りをいただいていることでもある。時間的にギリギリになっていることは確かである。今回の調査結果は、事が重大なだけに、学校だけでなく、周辺住民へ不安を煽ることのないように、慎重に議論を行ってきた。結果として、平成 27 年度まで時間がないというご指摘を受けているが、決して悪気があったわけではなく、慎重に判断をしてきたためである。言い訳のようになってしまいが、様々な経過を踏み、今年 3 月の発表になり、今日に至っている。ご理解をお願いしたい。

【委員】

途中経過の段階で報告して、不安を煽ってはいけないという話だったが、結論ありきで、選択肢がない現状の方がずっと保護者は不安でいる。方向性がどうなるか分からない段階

でも、このようなことが考えられるということを説明しておいた方が良かったのではないか。

【事務局】

なかなかその辺りの判断は、難しいところである。建物の構造計算のような数字ではっきりと分かるようなこととは異なり、地盤のことはある程度時間が必要となり、2年間継続調査を行ってきた。推測や不確実な部分が多くある中で、どこまでお話をすることができるのかという判断に苦しんだ。責任をもってしっかり説明ができる段階まで待ったのが実態である。

【委員長】

今日は時間があれば、皆さん一人一人にご意見を伺おうと考えていた。今日は時間がないため、次回、率直な思いを聞かせていただきたい。また、地元区への説明会については、どのように進めていくか。

【事務局】

あり方検討委員会の委員の皆さんは、様々なお立場がある。地元区への説明会については、別途相談させていただきたい。

【委員長】

重要な図面等をHPに掲載してはどうか。

【委員】

HPは見ないと思う。この問題について、温度差があり過ぎるように感じている。他の学校のPTAや先生は、関心が薄い。問題に直面している我々は深刻に考えているが、逆に、全く関心がない人がいることも事実。あり方検討委員会とは並行して、説明会を開いていただければありがたいと思う。PTAからも、あり方検討委員会の報告をしてほしいという要望もある。きちんとしたことを事務局から説明をしていただければ。

【委員長】

その辺りを市の方で調整していただければ。

【委員】

一つの学校の問題ではなく、市の問題として考えてほしいと市長にお願いしたい。市長に伝えていただきたい。

【委員】

昨日、岡谷区でも岡谷小学校の対策委員会を立ち上げた。このあり方検討委員会の委員の方にも、参加してもらっている。一番問題になっていることは、高圧的な押し付けをしている市の姿勢である。岡谷区においては、現地存続を希望する区民が70%くらいいる。理由は、市の姿勢に対する感情論、昔を懐かしむ気持ち、環境が良い等がある。岡谷小の直下に住む区民にも委員会に入ってもらっている。30億円くらいかければ対策が取れるという話をしたところ、安いではないかという話になった。30年で30億なら、1年にすれば1億ということになる。市長は、安心安全なまちづくりを公言しているが、実際やっている

ことが違うということになる。新聞に掲載されたアンケートによれば、市民が市の施策の何に関心があるかという、1番は健康医療、2番に子育て・学校・生涯学習とあり、教育に対する市民の関心が高い。行政は市民の声を反映させなければならない。これからの岡谷市の小中学校の基本構想はあるのか。また、学校の耐震改修を行っているが、今後も小学校8校、中学校4校としてやっていくという理解でよいか。

【事務局】

現在、基本構想はもっていない。ただし、今後の児童生徒数を見込むなかでは、岡谷市全体の通学区を含めて検討する必要がある。

【委員】

当初、最初に岡谷小学校を分散するという話を聞いた。ということは、小学校を8校から7校へ減らす構想があるのではないかと推測ができる。また3校を1校に統合するというのであれば、6校へ減らす等の構想もあるのではないかと。

【事務局】

そのような構想は、現在もっていない。岡谷小学校を耐震改修する予定でいたが、特別な条件が重なってしまった。今後、市の小中学校の基本構想は必要になるが、それとは別に、今、岡谷小学校の安全安心を担保する必要がある、対策を講じる必要がある。

【委員】

学校の下に住む住民に対しては。

【委員長】

土砂災害防止法は、のり面を抑える対策を取る法律ではない。危険な所であることを承知してもらうこと。

【委員】

区民は、安全安心なまちを望んでいる。

【事務局】

岡谷小学校の周辺は、急傾斜地にも指定されている。打てる対策は取っている。

【委員】

区民は知らない。

【事務局】

地域の皆さまには、急傾斜の指定や土砂災害防止法の指定等の説明会を行っている。急傾斜地の工事は、まさに区民の方の敷地の裏を工事するわけであり、説明を行っている。説明を覚えていない方もいらっしゃるだろうし、引っ越して新築した方もいらっしゃると思う。

【委員】

そのような説明もいっしょにしてもらいたい。聞いたところによると、他の市町村においても、今回の岡谷小の問題は関心があるようだ。また、全国でも同様の問題を抱えている自治体が240くらいあるようだ。そのため、安易に他に移ればよいという問題ではなく、

他の自治体にとってもよい事例となるようにしなければいけない。資料は、これで出尽くしたということでよいか。

【調査業者】

受注業務は全てカバーしている。

【委員】

以前お願いをしたが、資料を見せていただけるか。

【事務局】

ご覧いただけます。

【委員】

岡谷区の対策委員会で、調査結果内容を検討したいため、以前見せていただけるという話だった調査結果資料を貸していただきたい。

【事務局】

情報開示請求をしていただくことになる。別に隠す内容ではない。ただ、何か別の報告書があるわけでも、また膨大な資料があるわけでもない。委員会の説明用に必要なものをお出ししている。同じことではある。あるとすれば、地質調査のコアのサンプルがある程度である。

【事務局】

貸出しは無理なので、閲覧になる。コピーはできるが。

【委員】

また相談させてほしい。今後、岡谷区の対策委員会でこの件を検討していく。岡谷区民は、現地存続を望んでいる。

【委員長】

次回のあり方委員会は、いつ行ったらよいか。地元区への説明会のことがある。

【事務局】

区への説明会をどうするかについては、日程や会場、専門家のご都合もあるため、検討させていただきたい。また、このあり方委員会の運営にも関係するため、相談させていただきたい。

【委員長】

市の方で調整をしていただきたい。他に、何かありますか。

【委員】

3月の説明会のなかで、今回の件を子どもたちへ説明をしてほしいとの話があったが、どうなったか。

【委員】

子どもたちへの説明は、学校で行った。子どもたちの動揺については、前校長と現校長から話を聞く限り、ないと確認している。

【委員】

説明会では、学校からではなく、市の方から説明するという話だったが。

【事務局】

学校と話をするなかで、市の職員が説明するよりも、学校の先生から説明した方が子どもたちの動揺もないだろうということになったため、学校の先生から説明していただいた。学校の先生には市から説明を行い、しっかり理解していただいている。先生から子どもたちへは、専門用語などを分かりやすい言葉で説明していただき、子どもたちも動揺はないと聞いている。

【委員】

今回の宿題にしていただきたいが、土砂災害防止法等さまざまな指定がかかっている場所に学校を建替える場合に、補助金が出るのかお聞きしたい。ある人の話では、このような場所では、建替えの許可が下りないだろうと聞いている。

【事務局】

文部科学省の小学校設置指針では、盛土や急傾斜地に学校を建築することは、望ましくはないとしている。また、補助金の制度は、非常に複雑であるので、建築費の全てに補助金が出るかどうかは疑問である。

【委員】

移転先があるならば、その提案もしていただきたい。

【委員】

前回、移転先の可能性があると行ったのは、条件が揃った場合のこと。土地を譲っていただけなのかの問題もある。確定的なことを言ったわけではない。

【委員】

市の方から、移転先の候補地をいくつか提案してもらえるのか。

【委員長】

用地の買収となれば、協力が得られるかどうかの問題がある。市の方でも考える。その辺りも含めて、移転の方向で話を進めてほしいとの意見もあるが。

【委員】

現地存続の白黒がつかないままでも、移転についても並行して検討した方がいいと思う。

【委員】

岡谷区としても、区の対策委員会で議論していく。

【委員長】

他に何かありますか。

【事務局】

第2回委員会の現地視察の際に、岡谷小学校周辺のどこが土砂災害防止法の指定や急傾斜地の指定にされているか等の資料をお配りしている。委員の皆さんは、もう一度資料を確認していただき、共通認識を深めていきたい。

【委員長】

他にありますか。

(なし)

以上で、本日の委員会を終了いたします。

閉会 午後9時30分